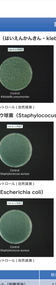

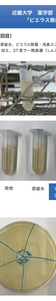

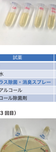

マスク塗布 72時間持続性試験
1：培地
2：精製水
3：ピエラス除菌・消臭スプレー
4：70% アルコール
5：アルコール除菌剤
液体培地・寒天培地（3 回目）
液体培地・寒天培地（2 回目）
寒天培地（1 回目）
大腸菌 10μL に試薬（培地、蒸留水、ピエラス除菌・消臭スプレー、消毒用 70% アルコール、アルコール除菌剤）を 90μL 加え、10 分
間室内で放置。培地を 1.2mL 加え、37 度で一晩振盪（しんとう）培養、液の濁度を測定。
マスクにスプレーし 24 時間・48 時間・72 時間経過後、試験微生物（肺炎桿菌）を培養。18 時間後の生菌数、菌減少率を測定。
試験微生物：肺炎桿菌（はいえんかんきん・klebsiella pneumoniae）
コントロール (自然減衰) 24 時間後
48 時間後 72 時間後
肺炎桿菌
コントロール（接種直後） 1.2 105
コントロール（18時間後） 1.6 107
24時間経過後 ＜20
48時間経過後 ＜20
72時間経過後 ＜20
菌減少率（％） 99.9
試験機関：KOTITI 試験研究院
（一般財団法人カケンテストセンター提携韓国試験室）
抗菌性能試験
試験微生物：黄色ブドウ球菌（Staphylococus Aureus）
コントロール (自然減衰) 18～24 時間後
試験微生物：肺炎桿菌（はいえんかんきん・klebsiella pneumoniae）
コントロール (自然減衰) 18～24 時間後
液体培地（振盪培養 1 回目）
試験微生物：大腸菌（Escherichia coli）
コントロール (自然減衰) 18～24 時間後
肺炎桿菌黄色ブドウ球菌大腸菌
コントロール（接種直後） 1.2 105 1.4 105 1.6 105
コントロール（18～24時間後） 2.9 107 5.7 106 3.3 107
生菌数（18～24時間後） ＜20 ＜20 ＜20
菌減少率（％） 99.9 99.9 99.9
試験機関：KOTITI 試験研究院（一般財団法人カケンテストセンター提携韓国試験室）
消臭性能試験
減少率
アンモニア 99%以上
トリメチルアミン（肉や魚のニオイ） 99%以上
硫化水素（卵の腐ったニオイ） 99%以上
ピリジン（タバコのニオイ） 98%
イソ吉草酸（足のニオイ） 98%
インドール（排泄物のニオイ） 97%
ノネナール（加齢臭） 94%
試験機関：一般財団法人カケンテストセンター ※2 時間後
近畿大学　薬学部　薬用資源学研究室　益子 高　
「ピエラス除菌・消臭スプレー」実験
FDA（アメリカ食品医薬品局 Food and Drug Administration）認定機関にて
皮膚刺激性試験実施
マスク静電フィルター機能維持試験
H3N2 A型インフルエンザ抗ウイルス試験
テスト吹き付け2回目
テスト吹き付け1回目
試験機関：FDA（アメリカ食品医薬品局）認定機関
臨床試験人数：110人
試験結果：皮膚刺激を誘発する兆候なし
2回のテストを行い、マスク静電フィルターの機能が94%以上維持されることを実証。
試験機関：KOTITI試験研究院（一般財団法人カケンテストセンター提携韓国試験室）
培地蒸留水ピエラス除菌
消臭スプレー
消毒用 70%
アルコール
アルコール
除菌剤
【所見】
液体培養を寒天培地に移動。
「ピエラス除菌・消臭スプレー」は 70% アル
コールと同等の殺菌効果を確認。
驚いたことに研究室で使用しているアルコール
除菌剤は、良好な結果を得られず。
試薬目視濁度（600nmの吸光度）
1：培地菌が繁殖 0.936
2：精製水菌が繁殖 0.960
3：ピエラス除菌・消臭スプレー繁殖しない 0.042
4：70%アルコール繁殖しない 0.006
5：アルコール除菌剤繁殖しない 0.000
試薬濁度（600nmの吸光度）
培地 0.748
精製水 0.724
薬用ハンドソープ 0.381
ピエラス除菌・消臭スプレー 0.069
アルコール除菌剤 0.042
70%アルコール 0.037
【所見】
実験は 3 回行い再現性があれば信頼できます。
「ピエラス除菌・消臭スプレー」については、3 回の実験で抗菌作用が確認されました。
大腸菌 25μL に試薬（培地、蒸留水、ピエラス除菌・消臭スプレー、消毒用 70% アルコール、アルコール
除菌剤、薬用ハンドソープ）を 75μL 加え、10 分間室内で放置。培地を 1.1mL 加え、37 度で一晩振盪（し
んとう）培養、液の濁度を測定。
試験機関：KTR（韓国化学試験研究所）